



今月のテーマ【未成年の飲酒】

4月は『20歳未満飲酒防止強調月間』です。

成長過程にある20歳未満の方の飲酒は、本人にとって身体的・精神的に大きなリスクがあるだけでなく、事件・事故につながりやすく、事件等が起きた時には、社会的にも大きな影響を与えます。

これらを防ぐためには、20歳未満の方が「なぜ自分たちはお酒を飲んではいけないのか」を理解できるよう、家庭や学校などでの教育を通し、大人の責務として社会全体で伝えていく必要があります。

「20歳未満は飲酒すべきでない」と思いますか？

令和5年2～3月に町民を対象に実施したアンケートでは、「20歳未満は飲酒すべきでないと思う人」の割合は6割未満でした。

まずは、保護者や身の回りの大人が「20歳未満は飲酒すべきでない」という意識を持つことが重要です。子どもの飲酒には、大人が責任を持たなければなりません。



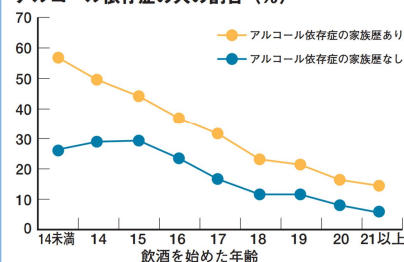
20歳未満はなぜお酒を飲んでいけないのか

20歳未満は脳や身体が発育段階にあり、大人と比べるとアルコールを分解する力が弱いため、脳や肝臓、心臓といった様々な臓器に悪影響を及ぼします。

また、飲酒開始年齢が低いほど、アルコール依存症になる人の割合が高くなることがわかっています。

成人では20年以上の大量飲酒で、未成年では数ヶ月から2年という短期間でアルコール依存症になると言われています

アルコール依存症の人の割合（％）



出典：日本医師会『なぜいけないのか、未成年者の飲酒』

≫ 次回は「たばこ」について掲載します

ほけんセンター ニュース

検診や健康情報をお知らせします

～令和7年4月から65歳以上の方などを対象に 带状疱疹ワクチンの定期接種が始まります～

带状疱疹とは水痘带状疱疹ウイルスが再活化することにより、神経に沿って痛みを伴う水疱が現れる皮膚の病気です。皮膚症状が治った後にも痛みが残り、日常生活に支障をきたすことがあります。

対象者

- ①年度内に65歳を迎える方
※令和7年度から5年間の経過措置として
年度内に70、75、80、85、90、95、100歳になる方も対象となります。（令和7年度に限り100歳以上の方は全員対象となります）
- ②60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

ワクチンの種類と接種費用

	生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回	2回
接種費用	2,500円	6,500円 (1回につき)
予防効果		
接種後1年後	6割程度	9割以上
5年後	4割程度	9割程度
10年後	—	7割程度



「」
詳細は厚生労働省ホームページでご確認ください